

大正末年頃の

二宮の松原(旧出雲街道)

写真提供・江見写真館



江戸時代から第二次世界大戦中まで、二宮の松原は、出雲街道を往来する旅人の目を楽しませ、津山の名勝とうたわれました。

その昔、吉井川は旧二宮村から東へ向かい、旧小田中村で筋違橋に出る川筋(現紫竹川)を流れていました。しかし、元和元年(1612)の洪水で安岡町の裏手を流れるようになり、河原になった高野神社神門前から筋違橋までが「筋違い道」として整備されました。慶安元年(1648)には官道となり、出雲街道が津山城下を通ることになりました。そして延宝8年(1680)、道の両側に五百数十株の松が植えられ、二宮の松原が誕生しました。

市史第3巻に「初めは人馬の往来も多くはなく、人家も隔絶していたので、行路病者の苦難もはなはだしく、夜間には辻斬りや強盗の恐れもあった。このため藩は南北2カ所ずつに茶店を開かせた。茶屋は旅人の憩いの場として、明治維新まで継続した(抜粋)」とあります。平成21年には、二宮歴史文化財顕彰会によって茶屋跡に説明看板が立てられました。この美しい松原は、昭和18年、軍需造船に供出するため、一本を残して伐採されてしまいました。



現在の二宮の旧出雲街道

このコーナーは歴史的
文化資産のデジタルアーカイブ(古写真のデジタル化)事業の成果の中から紹介しています

問い合わせ先
津山郷土博物館
☎22-4567

表紙について

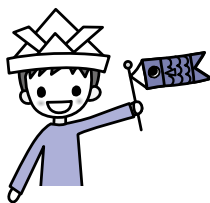
津山市消防操法訓練大会
4月11日、津山スポーツセンター

各方面隊から選ばれた精鋭チームが、消防ポンプ操作の正確さと迅速さを競った消防操法訓練大会。

降りしきる雨の中、訓練の成果を精一杯披露する姿が印象的でした。

つ・ぶ・や・き

編集室



森安家のクワジ。インタビュー中にちょうど冬眠から覚めました。なんという生命の不思議! 生命の神秘を感じながら成長すること。生命の尊さを実感すること。生き物が身近にすることで、子どもたちはすばらしい経験を重ねることができそうですね。(8)

津山加茂郷フルマラソンの取材は今年で4回目。毎回、写真を撮っているうちに自分も走りたくなる。ひたむきに走る姿に感動し、ハイになって手を振る姿にほほ笑み…。この前、可愛いジョギングシューズを見つけたので、買って来年は参加してみようかな。(和)

年々、悪化する花粉症。今春の取材ではマスクと眼鏡が離せません。ある時、急な雨で黒のコートフードを被りました。知人に声を掛けると「誰か分からなんだ…その格好かなり怪しい!」。「広報」と書かれた腕章をしていたら温かく見守って下さいね。(2)

